



✿
ア
マ
ビ
エ
✿



色々なイラストから、好みのものを選んで、描いたり、塗り絵をしました。お守りにどうぞ。

目次

- ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 59」 <2~5ページ>
【新型コロナウイルスワクチン接種レポート】
- ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記 (編集部) <6ページ>

【新型コロナウイルスワクチン接種レポート】

全世界で猛威を振るい、今だ終息の目処が立っていない新型コロナウイルス、私たちが暮らす横須賀市も 8 月時点では、日を追うごとに感染者数は増え、高止まりが続いており、新型コロナウイルスの脅威がすぐ近くに迫っていることを感じる毎日でした。

わたげ・ふぁず・こっとなはうすでは、毎日の感染対策を徹底し、本人・ご家族にご協力を頂きながら、これまで通りの運営を続けることができています。

利用者の方は 40 代の方が多く、8 月の時点ではまだ「基礎疾患の無い 40 代」にはワクチンが回ってくる目処が立っていない状況でした。そんな中、市内の医療機関から、施設内で新型コロナウイルスワクチン接種ができるようにご協力を頂けることとなり、この度、わたげでの新型コロナウイルスワクチン接種を行うことになりました。今回はその日を迎えるまでの準備や、当日の皆さんの様子、感じたことなどを記事にしていきたいと思えます。

新型コロナワクチン接種を行うにあたり、まず心配されたのは「注射が出来るか」ということでした。そこで、ご家族に事前にご希望を伺った上で、新型コロナワクチン接種を希望されたご家族には「これまで注射を受けたことがあるか」「注射を受けた時の様子はどのような様子か」「心配事はあるか」といったことを、入念に聞き取りました。ご家族からのアドバイスを元に、それぞれの方にどのような配慮が必要か、職員間で話し合いました。

ご協力いただける日程は、いずれも土曜日の午後でした。そこで「いつもは休日である土曜日の、更には午後に通所する」「しかも注射をしに行く」ということを、利用者の方々がどのように受け止めるのか、ということも心配の種でした。新型コロナワクチン接種を行うために、まずは接種会場であるわたげに来てもらわなければなりません。これはご家族のご協力なしには成し得ないことです。

予定の伝達

普段、わたげやふぁずで過ごしている皆さんの様子や、ご家庭から事前に頂いた情報を元に、当日を迎えるまでに必要な、それぞれの方に合わせた予定表を作成していききました。

お伝えする時期について、ある程度の見通しの持てる方については、前日までに文書や写真、イラストを順に並べた予定表を作成してお伝えしました。様々な情報から、「新型コロナワクチンが 2 回接種が必要」とご存じの方もいましたので、必要な情報をお伝えしていききました。

当日の朝にお伝えした方が分かりやすい方へは、当日の流れを写真やイラストを並べた工程表を用意しておき、事前にご家族の手元届くように準備、当日、ご家族から説明をしていただきました。



大きな出来事をお伝えするとき、（今回であれば、新型コロナウイルスワクチンを接種すること）その出来事を伝えることに注目しがちですが、接種をすることだけでなく、接種が終わったらどうする（帰宅する）こともしっかりお伝えすることで、終わりを明確にしました。終わりまで明確になることで、いつもとは違う流れであることや、終わったら帰るのだということがはっきりとし、見通しが立ちやすくなります。終わったら帰るのが当然、と思いがちですが、いつもとは違う出来事が起きるのであれば、どうなったらいつもの流れに戻るのか、当たり前のようにもしっかりとお伝えすることが大切です。



伝える内容について「わたげで新型コロナワクチン接種をする」ということを、しっかりと伝えた方が良かったか「わたげに行く」ということだけをお伝えし、わたげに到着してから何をするのかをお伝えした方が良かったか、ご家族としっかりと話をしました。

伝える内容と時期についても、楽しみにできるような内容ではないだけに、慎重に検討をしました。事前にはっきりと具体的にお伝えした方が良かった方もいれば、早い段階で耳に入ってしまうと、当日まで不安が募って、ご家族に何度も確認を求めてしまうと想像される方もいました。ご家族の協力も不可欠な中、本人はもちろん、ご家族にとっても負担のないように、考えていきました。

「ワクチン接種をする」と知った時の様子

お伝えした時の反応はそれぞれでした。さらりと見て「はい」と返事をする方、予定表をじっと見つめていたり、指をさして職員に口頭でも説明してほしい様子の方、音読して連絡帳に自分で挟んだ方もいました。提示物の注射のイラストに数字を1から5まで記載し、5秒間で接種が終わることを説明したところ、自身の腕を伸ばして注射する位置に爪を立てるようにし「1, 2, 3, 4, 5」とカウント「出来た」と接種する様子を再現した方もいました。

注射が苦手な方に向けて、ご家族との相談上「注射をする」ということはあえて伝えないでおこう、ということで、医師と患者が話をしているイラストを使った予定表を準備しました。そして前日、準備した予定表を使って予定の伝達をした際、その後、とても不安な様子が見られました。ご家族と再度相談し「何をするのか、しっかりと伝えよう」ということになり、改めてお伝えしたところ、お伝えした途端にずっと落ち着いた、ということもありました。



迎えた第1回目の新型コロナワクチン接種

当日は、わたげ事務所に欠席の電話が入らないことを祈りつつ、時間まで待機、結果、希望された方全員が、落ち着いてわたげに到着した姿を見て、まずは一安心でした。わたげに到着してからは、皆さん普段使っている作業の席や休憩の席で、順番を待ちました。待ち時間があつたので、本を読んだりパズルをしたりする方もいましたが、大半の方は椅子に座って落ち着いて自分の順番を待っており、いつもの作業室が、さながら病院の待合室の様でした。

接種会場は2階の食堂に設定しました。いつもとは違う雰囲気を作るため、食堂の机の配置を変え、診察室のような配置にしました。食堂の前のフロアにはベンチがあるので、椅子も追加で並べ、待機できる場所を作り、事前に心の準備が出来るようにしました。

実際の接種は、名前を呼ばれるとすっと立ち上がって医師の前まで行き、落ち着いて接種出来た方がほとんどで、驚きました。接種することは分かっているけど「怖いものは怖い!!」という様子の方もいましたが、少し時間を置いたり褒めたりしながら、一緒に頑張りました。接種会場入口までは来たものの、その先に進めない、という方もいましたが、先生と看護師の方にご協力いただき、会場の入口まで出てきていただきました。本人も先生の姿を見ると、心を決めることが出来たのか、会場前のベンチに座り接種を受けることが出来ました。

ご家族との相談の中で、接種の時に針が腕に刺さるところを見せない方が良いのでは、という方もいました。そこでその方が興味のあるようなものを用意し、接種するときには注意を反らせて、という作戦を立て、小道具も用意して臨みました。が、職員が用意した小道具は手で払いのけ、自分の腕をしっかりと見ていました。

その方に限らず、ほとんどの方が接種する様子を目で確認していました。自分に何が起きるのを見届けたい、ということなのかなと感じました。(私もがつり見る派です)

全員が無事接種を終え、送迎車で皆さんを送迎場所まで送り届けた際、送迎場所で待っていたご家族に「全員無事接種出来ました」と報告、「おお〜!」という歓声と拍手を頂きました。



診察室風に。

第2回目の新型コロナワクチン接種へ

「一度痛い経験をした利用者の方が、2回目をどのように受け入れるのか…」そんな心配をしている中、2回目接種の前日に「ワクチン、40℃、熱、お休み」と繰り返し職員に言う利用者の方がいました。日々のニュースやご家族の様子などから、事前に情報を得ているであろう、ワクチンの副反応に対して不安を感じているのかと思い、不安を解消するにはどうしたらよいかを考えました。しかし、熱が出る「かも知れない」ということを伝えるのは難しいと感じました。本人の話を聞きながら、もしかしたら「どうなるか」という不安よりも「熱が出たら、どうしたらよいか」ということが分からなくて不安になっているのではないかと考えました。そこで「熱37℃~40℃→わたげお休み」「熱36.9℃→わたげに行きます」と、文字で示し、発熱したらわたげはお休みであること、発熱しなかったらわたげに来ることをお伝えしたところ、「わたげ行きます」と文字を指さして「はい」と一言。その後は落ち着いた様子で普段通りに過ごしていました。

1回目での様子を踏まえ、必要な方にはより配慮をした上で、2回目が行われることを伝えていきました。皆さん納得した様子で当日を迎え、全員が無事に2回目も接種することが出来ました。更に、1回目は接種を怖がってしまっていた方が、2回目は名前を呼ばれると自ら医師の待つ会場に入り、自信満々に腕を差し出し、終わるとすんなりと待機場所に戻る、という姿も見られ、感動しました。

今回の経験で感じたこと

恥ずかしながら、私自身は1回目の新型コロナウイルスワクチン接種の前日、緊張からか片頭痛を起こしてしまい、他の職員からも「一番緊張してるの、海江田さんだね」と言われる始末でした。当日は、滞りなく進んでいく接種の様子を見て、皆さんの勇気と肝の座り方に感心しました。(それに比べて、私の肝は、何処にあるのでしょうか…)

予定していた時間よりも30分以上早く接種が終わり、2回目の接種時には1回目の終了時間よりも30分早めて計画を立てたものの、更に30分早く終わり・・・と、滞りなく進んでいく様子に、経験することの大切さを痛感しました。

今回の新型コロナウイルスワクチン接種を無事に行えたことは、利用者の方だけでなく、職員にとっても大変貴重な経験となりました。日頃、利用者の方やご家族の方と、どれだけコミュニケーションが取れているのか、信頼関係を築くことが出来ているのか、ということや、日々の利用者の方の様子をしっかりと観察、評価しているか、些細なことも見逃さずに、利用者の方の得意なことや苦手なことを、その場での単独の出来事ではなく、生活全般のことに紐付けして想像が出来ているか、そんなことも考えさせられる出来事でした。

しばらくは新型コロナウイルスに配慮をしながら、生きていかななくてはならないであろう私たち。その生活の中でワクチン接種は特別なことではなく、当たり前のことになってくるのかもしれない。そんな未来が想像される中、今回の新型コロナワクチン接種は必要なことで、今回が第一回目の頑張りどころなのだ、ということや、職員やご家族が真剣に考え、本気で臨むのだ、という「本気度」が、利用者の方に伝わったことも、今回の成功の大きな要因ではないかと思っています。

新型コロナウイルスの存在が明らかになってからこれまで、日々の生活の中にはたくさんの変化がありました。マスクの着用や手洗いの徹底、こまめな消毒、こまめな換気、ソーシャルディスタンス、外出の制限、それでもいつ感染するかわからない不安……。不安・不満・我慢の積み重ねですが、その現実を受け止め、変化に対応していく利用者の方々に、日々、力をいただいています。

これからも、様々な困難が起きるかもしれません。利用者の方・ご家族の方・職員とで力を合わせて、乗り越えていけたらと思います。

この度ご協力いただきました、先生、看護師さん、クリニックの皆様に、感謝をお伝えします。本当にありがとうございました。

また、今この瞬間にも現場で戦っておられる医療従事者の皆様にも、感謝とエールを送ります。私たちは、感染対策を徹底し、感染をしない、させない努力を怠らないことで、医療従事者の方々に応援していきます。

みんなで頑張りよう！

海江田



たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

| | | | |
|-------|------|----|---------|
| ▼ 年会費 | 個人会員 | 1口 | 3,000円 |
| | 団体会員 | 1口 | 10,000円 |

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:いまうじ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話:046-884-8040 (担当:さかい)

E-mail: faz2018@wing.ocn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしかわ)

E-mail: tanpoonosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記

2021年8月24日から東京パラリンピックが開催された。日本は、新型コロナウイルス新規陽性者及び重症者が拡大する中であった。コロナ関係のニュースが毎日流れる中、心までもが“自粛”という気持ちになりつつある日々。そんな日常にリアルタイムに流れていた“パラリンピック選手達と選手をサポートする人達の躍動”に、何か前向きになれる力強さを貰えた。例えば、陸上5000m視覚障がい。「ガイドロープ」で結ばれた伴走者が、視覚障がい選手の目の役割を担う。伴走者は、進む方向やコースの凹凸などを指示、誘導をする。選手を引張ったり選手より先にゴールラインを通過してはならない。そして、ゴールを目指すには、視覚障がい選手が発する声や動作によるメッセージに、伴走者が応えて導いていく。決勝のレース。唐澤選手と2人の伴走者は、息や歩調、伴走者交代のタイミング、それぞれが一寸の狂いもないかの様に躍動。ゴールラインを“銀”という形で走り抜けた。その3人の走りを観て心が熱くなり、走り終えてからは心温かいメッセージを得たかの様だった。

改めて、自閉症者の支援者として、本人達の発するメッセージに応えて、本人達の目標のゴールへと、上手に寄り添いながら支援が出来ているのかと自問する。

編集部 酒井

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp